



水間観音駅。寺院風の駅舎は大正15(1926)年に建てられたもの。両翼が開いたシンメトリーの姿は美しく、JR大社線・旧大社駅と並ぶ社寺風駅舎の傑作。旧駅名「水間驛」の額が残る。国の登録有形文化財。



大阪府 水間鉄道

水間線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA

連載 第9回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか



厄除けの霊場と

寺内町を結ぶ参詣路線

日本初の経済小説といわれる井原西鶴の『日本永代蔵』（1688年刊）に、多くの男女が遠路はるばる歩き、水間寺を参詣する様子が描かれている。西鶴は信心深さに応じたご利益が得られるからと書いているが、水間寺は厄除けも有名で、参詣客を多数集めた。こうした光景は近代以降も見られた。

水間鉄道発起人の一人で、後に常務取締役となった川崎寛太郎は、大正5（1916）年に初詣で水間寺を訪れた。南海鉄道（現、南海電気鉄道）の難波駅駅長も務めたことがある川崎は、「交通の不便な水間寺に殺到する参詣客を見るにつけ、永年の鉄道生活の体験から、大阪、和歌山に近いこの地に鉄道を敷設し、水間寺を中心に付近を開発すれば、将来は必ず発展する」（『水間鉄道50年の歩み』）と考えたという。

川崎がこう考えた背景には、南海鉄道が阪堺鉄道の事業を譲り受け、明治36（1903）年、大阪の難波と和歌山市が鉄路で結ばれたことがあった。つまり、この沿線の駅から水間寺へ鉄道を引けば、大阪市内からの水間寺参詣が格段に楽になるというわけだ。

そんな歴史を振り返りつつ、まずは人々が目指したという水間寺へ向かった。

始発の貝塚駅から、終点の水間観音駅まで15分。霊場に向かう鉄路の旅としては、目的地への期待感が高まった頃に到着する



貝塚御坊とも呼ばれる貝塚寺内町の中心寺院。奈良時代に行基が庵を結んだことに始まるとされる。天正 11 (1583) 年には顕如が入り、ここを本願寺とした。

貝塚駅の南海電鉄から水間鉄道への乗り換え時を通る階段の入り口。寺院の本堂を思わせる五色幕や水間寺の寺紋が入った朱幕が下がり、参詣気分が盛り上がる。

寺内町は大きな寺院の周囲に檀信徒が集住して形成された。中心部に核となる寺院とが建ち、周囲に民家が並び、町の周囲は土塁や環濠で囲まれた。

水間観音駅



駅舎中央の塔を内部から見上げたところ。祀崩しの棧がついた明かり窓が印象的。寺院の伝統的な意匠を使いながらも大正モダンの雰囲気漂う。



水間寺



聖武天皇の勅願により行基が訪れ、聖観音像を得て創建したという。これにより天皇の病気は平癒し、以後厄除けの霊場として有名となった。

森稲荷神社

感田神社



貝塚寺内町の産土神(氏神社)で、もとは感田瓦大明神と呼ばれていた。かつて貝塚寺内町は環濠で囲まれていたが、今は神田神社に名残を留めるのみとなっている。



もとは東方の山に鎮座していたと伝わるが、いつ現在地に遷座したのか不明。この地域の総社として信仰を集めるとともに、摂津・河内・紀州からも参拝者が訪れた。

水間鉄道株式会社

Mizuma Railway Co.,Ltd.

開業 大正 14 (1925) 年 12 月 24 日
鉄道線 貝塚駅 - 水間観音駅 (5.5km)
https://www.suitetsu.com/

ほどよい乗車時間だ。大正モダンのデザインを取り入れた寺院風建築の水間観音駅舎も、参詣気分を高めてくれる。
駅を出て右に続く参道を歩いていくと 10 分ほどで水間寺に到着する。庶民信仰のお寺らしく本堂・三重塔の他にも御利益ポイントが多く楽しい。近松門左衛門の人形浄瑠璃で知られるお夏・清十郎の墓がある愛染堂は、NPO 法人による「恋人の聖地」にも選ばれている。
水間観音駅に戻り、上り列車に乗車し森駅で途中下車する。線路に沿って 5 分ほど歩くと森稲荷神社に着く。創建年代は不詳だが水間寺に続く水間街道は、もとはこの神社へ参拝する人が歩いた道であったという。今はその跡を水間鉄道が走る。
再び列車で貝塚駅へ。駅周辺の貝塚市中枢部は、願泉寺を中心とした寺内町から発展した。寺内町とは、寺院を中心に周囲を土塁や環濠で囲い要塞化した町のこと、中世後期に北陸や関西で発展した。寺内町では商業が発展することが多く、貝塚も江戸時代にはつげ櫛や木綿、菜種油などの取り引きで賑わった。その交易に一役買ったのが水間街道である。水間鉄道も開業当初は貨物運輸を行い、経営の安定に寄与した。戦後は沿線の宅地開発が進み、通勤通学路線としての性格を強めたが、今も参詣路線であることを堅持しており、水間寺とタイアップしたイベントなども多い。コロナ禍の 2020 年には水間寺で祈祷を受けた「1日フリー祈念乗車券」もネットなどで販売された。

しぶやのぶひろ

1960 年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究者。『図解 はじめての神道と仏教』(ワン・パブリッシング)、『呪いの日本史』(出版芸術社)、『聖地鉄道めぐり』『日本の暮らしと信仰 365 日』(以上 G. B.) ほか著書多数。